

# SlackBot プログラムの報告書

2020/4/28

松田 陸斗

## 1 はじめに

本資料は、B4 新人研修の Ruby による SlackBot プログラムの作成の報告書である。本資料では、SlackBot プログラムの作成に関して、理解できなかった部分、作成できなかった機能、自主的に作成した機能を述べる。

## 2 課題内容

以下の 2 つの機能をもつ SlackBot プログラムを Ruby で作成する。

### (1) 任意の文字列を発言するプログラムの作成

受信した発言の中に”「hello」と言って”という文字列があった場合は、”hello”と発言する

### (2) SlackBot プログラムへの機能追加

Slack 以外の Web サービスの API や Webhook を利用した機能を追加する。

## 3 理解できなかった部分

### (1) local から Slack.com にポストリクエストを送るとエラーが出る

## 4 作成できなかった機能

### (1) 時報機能の作成

当初の予定では、cron を動かすことで時報機能を作成しようと考えていた。しかし、Heroku の無料サーバでは 30 分アクセスがないとシャットダウンしてしまうため、有料サーバを使う、無料サーバに外部から 30 分おきにアクセスをするなどの工夫が必要である。今回作成する課題は、Web サービスの API や Webhook を利用した機能の追加のため、時報機能の実装は見送った。

## 5 自主的に作成した機能

### (1) 天気を取得する機能

”@matsudabot (場所) の天気”という発言を受信すると、(場所) の天気を取得する。

(2) ニュースを取得する機能

”@matsudabot ニュース” という発言を受信すると、トップニュースから 1 件取得する。また、”@matsudabot ”(検索ワード)” のニュース” という発言を受信すると、(検索ワード) を含むニュースを 1 件取得する。さらに、”@matsudabot ニュースを 3 件” という発言のように、件数を指定すると、指定した件数のニュースを取得する。

(3) クイズを出題する機能

”@matsudabot クイズ” という発言を受信すると、クイズをランダムに取得する。そして、次の発言をクイズの解答として受信する。

## 参考文献